



校長室だより

スローガン ～生徒も先生も、自ら輝く学校～

目指す学校像

『未来を、たくましく生き抜ける生徒』の育成
キーワード「自立・貢献・創造」

令和4年5月16日(月)

発行者 田熊利光

石橋中ホームページQRコード



生活面の目標＝「凡事徹底」について

「誰にでもできる当たり前のことを、誰にも真似できないくらい磨きをかけることで、凡事が非凡に変わる」ということを意識して皆さんは今まで生活してきました。

自転車小屋はいつも整然と自転車が並べられています。下駄箱の靴のかかところが下駄箱の端にぴったりそろえて置かれています。3分前着席も当たり前にできています。皆さんの挨拶は、地域の方からお褒めの電話をいただくなど、地域の方も喜んでくれています。

5月10日(火)に小中一貫教育についての会議がありました。そこで小学校の校長先生方から、「中学生になるとみんな素晴らしい挨拶ができるようになるのはなぜですか。」と、とても感心していました。そこで、私は「中学校では『凡事徹底』の大切さを教えています。誰に対しても気持ちの良い挨拶をしよう。挨拶一つでも心を込めて行えば、相手に感動を与えることができる」と伝えていきます。先輩が後輩に挨拶の手本を見せているため、後輩たちも自然にまねしてできるようになるのだと思います。」と答えました。挨拶一つでも皆さんの大きな成長を感じ、小学校の先生方もとても感動されているようです。今後とも心を込めた挨拶を心がけましょう。

小中一貫の日＝「家庭学習強化の日」

下野市では、平成30年度から年間6回程度、「小中一貫教育の日」として各中学校区において教職員が一堂に会し、研修を行っています。各部会の取組や決定したことなどは、各校で共有しながら進めています。小中一貫の日は、「家庭学習強化の日」とし、児童・生徒は一斉下校となります。皆さんも、既に理解していると思いますが改めてお知らせしました。

今年度の「家庭学習強化の日」は5月18日(水)・6月8日(水)・11月30日(水)・12月21日(水)・1月27日(金)の5回になります。自分の目標をしっかりと定めて、計画的に自主学習に取り組みましょう。

ちょっといい話 「雑草魂」

私たち人間も雑草に負けぬよう、しっかりと根を張って、強く生き抜いていきましょう

「柔よく剛を制す」という言葉がありますが、この言葉は、剛(固いもの)より柔(しなやかなもの)が強いと解釈されることが多いですが、本当はそうではないようです。本来の意味は「柔も剛もそれぞれの強さがあり、両方併せ持つことが大切である」という意味だそうです。ところで、踏まれるところに生きる雑草の多くは、固さと柔らかさを併せ持った構造をしています。堅いだけでも柔らかいだけでも踏みつけに耐えることはできません。固さと同時にしなやかな柔らかさを持ち、柔らかさの中にしっかりとした固さをもっている。それが踏まれて生きる雑草の強さの秘密なのです。

雑草は踏まれて横にも伸びられなくなった時、どんな成長をすると思いますか。雑草は上に伸びるのではなく、下に伸びます。根を伸ばすのです。上に伸びるだけでは、踏まれたらポッキリ折れてしまいます。根を伸ばしても、見た目には成長していないように見えるかもしれません。しかし、見えないところで根が成長していきます。根は植物を支え、水や養分を吸収する大切なものです。人間も、「根性」「心根」という言葉を使います。辛いとき耐えるとき雑草はじっと根を伸ばします。その根っこが、日照りになったときに力を発揮するのです。雑草の伸び方は横だったり上だったり様々です。そして、小さな花を咲かせて次の世代に命をつなぐのです。そんな雑草たちはどこを見て生きているのでしょうか。伸び方はそれぞれでも、どの雑草も太陽に向かって葉を広げています。人間は横を向いて生活していますが、雑草は上を向いて生きています。うつむいている雑草はないのです。雑草のように空を見上げてみてください。太陽が降り注いでいます。青い空が広がっています。白い雲が流れいています。おそらくそれが雑草が見ている風景です。そしてお日様を見上げたときに、足の裏から湧き上がってくるような力を感じたとしたら、それこそが雑草が感じている「生きる力」なのかもしれません。踏まれても踏まれても雑草は花を咲かせて種を残すという大切なことを忘れません。それこそが本当の「雑草魂」なのです。

雑草生態学者 静岡大学大学院教授 稲垣栄洋著『はずれ者が進化をつくる』より

(社会の変化と教育の変化について)

一昔前は「消費社会」と言われました。マニュアル通りに正確にできる能力が大切でした。先生の役割は**インストラクター（教える人）**でした。先生が板書したことを、生徒はノートに写す。一斉授業と言われるスタイルで、効率よく知識を伝えることが大事でした。（現在でも基礎基本を抑える場面では一斉授業スタイルはあります）

今は、「情報社会」です。様々な知識・情報は一瞬で手に入ります。大切なのは、知識・情報を正しく捉え、判断し、自分なりの考えを持ち、情報を使いこなす**「情報操作能力」**です。これからは予測困難な社会で、一人では解決できない課題を仲間と共に解決していくことが大切になります。だから授業でも**「協働と対話」**が大切だと言われています。そんな社会を生きる力を生徒に付けるために、今、求められている先生の役割は**「ファシリテーター」（話をまとめる人）**です。仲間との情報のやり取りや対話を通して、考えが深まり、**新たな視点を獲得**できるよう、**先生は「つなぐ人」**になります。それは高い山を登って行くイメージです。先生は諦めかけている人を励ましたり、そっと背中を押したり、ヒントを出したり、仲間とつないだりして、一人では到達できない高い山の頂上に立つための**「足場を掛ける」**役割を果たします。仲間たちと山頂に立って見る景色は、今までと違う素晴らしい景色です。これが**「新たな視点の獲得・新たな価値の創造」**と言われることです。

では、その先の未来はどうなるかというと**「創造社会」**になると言われています。今までになかったものやことを自分たちで創造していく社会です。そんな時代を生き抜くのに必要なのは**「自分で未来を創造する力」**です。先生の役割は**「ジェネレーター」（生成する人）**になると言われています。別の言い方をすれば**「生き方を通して在り方を示す存在・自らの探究心で、周囲に影響を与え、探究する場を生成する人」**に変わります。ですから、何かを創造する過程で様々なことを学ぶ教育が大切になります。

皆さんは、既に**未来を先取り**して、このような学びを経験をしています。昨年度、コロナ禍の卒業式での在校生サプライズ。運動会での縦割り団のマスゲームの創造。輝石祭のゼミ活動も、**何かを創造する過程で様々なことを学ぶ体験**そのものです。先生も生徒と共に創造することを愉しみ、伴走者として生徒と一緒に走っていくイメージです。

いずれにしても、学校の授業の主役は生徒の皆さんです！皆さんが全面に出て活躍する姿を期待しています。

是非、皆さんには、**「未来は自分で切り拓くんだ！」**という**気概**を持ってほしいと思います。夢や目標を持って、それを形にできる**「自立型人間」**を目指しましょう。そのための力を今から付けていきましょう。